

飼料用米玄米を粉碎し必要な栄養成分となるよう調整用配合飼料と混合することで発育成績を損なうことなく肥育期に給与可能。



単飼豚房による飼養試験の様子

芳賀分場養豚研究室では、平成23年度より養豚における飼料用米給与技術の確立を目指して試験に取り組んでいます。今年度は、粉碎した飼料用米の玄米を50%及び75%混合した飼料を用いて肥育試験を行い、生産性や枝肉成績に与える影響について調査しましたので、結果の概要について紹介します。

試験区は、飼料メーカーの協力により調整した飼料用米50%及び75%混合用のベースミックス飼料を用い、通常肥育後期飼料（CP14.5%以上、TDN77%以上）と同等の養分要求量を満たす50%区（CP14.5%以上、TDN77%以上）と75%区（CP14.5%以上、TDN79%以上）を設定しました。



調整した飼料用米混合飼料

給与期間は生体重70kg～115kgとし、調査項目は発育成績、枝肉成績としました。

結果は、平均出荷日齢では対照区、飼料米混合給与区で大きな差は認められませんでした。1日平均増体重で、75%飼料米混合飼料区が0.93kgと高い傾向にありました。

表1 発育成績

| 区分 | 平均出荷日齢（日） | 1日平均増体重（kg） |
|------|-----------|-------------|
| 対照区 | 168.3±4.4 | 0.85±0.02 |
| 50%区 | 168.6±5.6 | 0.85±0.05 |
| 75%区 | 170.0±6.3 | 0.93±0.05 |

枝肉出荷成績では枝肉重量、歩留り、背脂肪厚共に大きな差は認められず、試験区の上物率も対照区に比べて遜色はありませんでした。

表2 枝肉成績

| 区分 | 枝肉重量（kg） | 枝肉歩留り（%） | 背脂肪厚（cm） | 上物率（%） | 枝肉単価（円/kg） |
|------|----------|----------|----------|--------|------------|
| 対照区 | 72.0±1.4 | 64.8 | 1.9±0.2 | 75 | 341 |
| 50%区 | 76.1±1.9 | 67.5 | 1.9±0.1 | 80 | 342 |
| 75%区 | 76.1±1.9 | 68.4 | 1.8±0.2 | 60 | 334 |

詳しくは→https://www.pref.tochigi.lg.jp/g70/press_etc/documents/h29kennpou2.pdf